

人はなぜ落ちるのか

佐倉市立志津小学校
校長 辻 太久郎

5月18日（水）、第一部会陸上競技大会が開催されました。二年ぶりの開催となりました。大会の数日前、選手たちにはこんな話をしました。「皆さんの先輩、現在の中学一年生は、結局一度もこの陸上大会を経験することなく、卒業していきました。今年こうして大会が開催されることが当たり前のことではなく、皆さんの活躍を願う多くの方々の努力があったからこそ、大会が開催されるのです。大会当日は、お弁当を作って送り出してくださるお家の方、大会運営役員の先生方、競技場にでさえ『ありがとうございます』と言える選手になってください」。

さて、その大会結果ですが、志津小選手はまさに快進撃でした。詳細については、この紙面の別枠でご紹介させていただいております。そんな中、ある男子は「絶対に郡大会に行く！」と練習に励み、当日もかなりの気合が入っていました。しかし、残念ながら結果を出すことができませんでした。努力すればするほど、気合が入っていればいるほど、結果につながらなかった時の落胆は大きいものです。人生の厳しい一面です。その男子は、帰校後も悔し涙に暮れていましたが、最後は気持ちを切り替え、クラスみんなに「応援してくれてありがとうございました」と言えたそうです。とても立派でカッコいい態度だと思いました。

よく「結果よりもそれまでの過程が大切」と言いますが、この少年の態度は「結果のその後はさらに大切」ということを我々に教えてくれています。彼の級友への「ありがとう」のひと言は、一度失意の底に落ちた彼が、そこから這い上がろうと力強く上に手を伸ばした瞬間です。また、彼が級友に感謝の言葉を発したその時、心の中はまだ辛いままだったはずですが、しかし、心の中よりもまずは行動で一步前に踏み出しました。その行動が心を変えやがてそれが本性になっていきます。彼は必ず今よりもさらに強く成長します。

数年前、映画「バットマン・ビギンズ」を観ました。バットマンが誕生するまでの物語です。ある日、主人公のブルース少年（後のバットマン）が、友だちと遊んでいたところ、誤って枯れた古井戸に落ちてしまいます。暗い井戸の底で少年はコウモリに襲われるなど恐怖体験をします。しばらくして父親に助け出されるのですが、その時の体験がトラウマとなってしまいます。コウモリや闇を極度に恐れるようになったブルース少年に、ある日父親が言います。「人はなぜ落ちるのかわかるか？それは這い上がる（ことを学ぶ）ためだ」。その後、ブルースはバットマンへと成長するわけですが、もちろん周囲には内緒です。覆面を脱いだ表向きのブルースは、大富豪でプレイボーイで贅沢三昧です。ある日、久しぶりに幼馴染（ブルースが恋心を抱いている女性）に再会します。犯罪はびこる腐敗した街で、大富豪でありながら何の貢献もせず遊び惚けている（ように振舞っている）ブルースに、彼女は失望します。それに対し彼は「本当のぼくは全く違う」と答えます。しかし、彼女は言います。「人の本性は行動で決まるのよ」。

以上、突然の「バットマン」話で失礼いたしました。先ほどの「失意を乗り越える男子」を見たとき、映画の名場面を思い出したので、あえて紹介させていただきました。